



<6月号>

朝三中だより

<目指す学校像> 一人一人が輝き 感動と笑顔あふれる学校

朝霞市立朝霞第三中学校
令和5年5月22日発行

〒351-0023
朝霞市溝沼1043-1
TEL 048-464-7575
FAX 048-467-4742

校長 嶋 徹

間近に迫った体育大会(27日(土))に向けて、生徒は体育委員を中心に大縄跳びやリレーの練習等に頑張っています。日ごと意欲が高まって、上達しているのが実感できるので本番がとても楽しみです。生徒が頑張る姿を参観いただき、温かい声援を送ってください。



「これが正解」はない時代

かつては慣習的な特定の価値観が強かった日本ですが、近年は価値観の多様化やLGBTQをはじめ性的マイノリティーの尊重など、「多様性の時代」「個性の時代」とも言われます。さらに、急速に進化しているAI(人工知能)などの科学技術の進歩もあり、20年後30年後を見通すことが難しくなっています。このような状況から、将来においては「これが正解」という考え方は、これまでとは大きく異なってきました。

人の生き方も同様で、「将来の夢や目標を最短で実現できること」が必ずしも正解とは限りません。3月のWBC(ワールドベースボールクラシック)で大活躍し、その後も活躍が連日のように報道されている大谷翔平選手は、その典型だと思います。大谷選手は、少年期からアメリカのメジャーリーガーになることを切望し、投打の練習に励みました。高校3年のプロ野球ドラフト会議までは、日本のプロ野球界に進むことを拒んでいました。しかし、日本ハムファイターズがドラフト会議で指名して、当時監督だった栗山英樹さん(後のWBC監督)が説得して入団、そして日本で実績を積んでから、念願だったメジャーリーグのエンゼルスへの入団が実現しました。

プロ野球やメジャーリーグにおいて、バッターあるいはピッチャーの片方だけでも成功することはとても困難なことです。大谷選手は投打二刀流で成功を収めています。結果が出たから言える部分もありますが、「最短が人生の正解ではない」、「寄り道もいい」という考え方は否定できません(大谷選手自身が自分の人生選択をどう考えているかは不明ですが...)。もちろん、夢や目標の実現のために、最短経路を目指して頑張ることを否定するつもりはありません。

また、「人間が進歩するためには、まず第一歩を踏み出すことである。長い目で見れば人生には無駄がない。」という名言を残したのは、HONDAの創始者本田宗一郎です。人生には、様々な試練や転機があります。試験や就職など、誰しものが失敗するよりも成功することを願っています。しかし、いつも成功するとは限らないことを、過去の経験から知っています。人生には無駄な経験は何一つありません。どんな場合でも、その人の捉え方ひとつで後の人生に役立てることができるのです。

「これが正解」はない時代です。失敗も時には貴重な経験となります。人はそれぞれの個性があって、考え方もさまざまです。正解だったかどうかは、ずっと後になって本人が最終的に判断することです。

一度、このような内容でお子様と意見交換をしてみたいはいかがでしょうか。